

Webサイトは画像への配慮も必要

電子自治体のユニバーサルデザインの中で

最初に着手すべきなのがWebサイトのアクセシビリティだ。

公的機関のWebサイトは幅広いニーズや年齢層を最初から考慮して作られるべきである。

アクセシブルなWebサイト作りでは、どのような点に配慮すればよいのだろうか。

関根千佳 =文

ユーディット 代表取締役
情報のユニバーサルデザイン研究所

日本は世界最高齢国家だが、前期高齢者と呼ばれる50代は、IT利用率がかなり高い。企業もシニア層を優良顧客とみなして、Webのアクセシビリティに努めている今、公的機関においてのそれは、常識の範囲であるといえるだろう。加齢の影響は40代から始まる。平成13年の厚生労働省の資料では、障害者手帳を持つ人の実に87%が50代以上である。今後、成人人口の50%が50才超の時代を迎える日本においては、有権者、納税者、消費者の半分は、加齢によりなんらかの障害を持つ軽度重複障害者と考えるべきなのだ。

海外では、公的機関のWebサイトはアクセシブルなもの以外は認めないとする国も多い。ポルトガルではパブリックと名が付けば幼稚園のサイトでさえアクセシブルでなくてはならず米国も2001年のリハビリテーション法508条で、連邦政府サイトのアクセシビリティを義務化してから、公的機関では当然のマナーと考えられるようになった。アジア各国でも省庁や自治体での理解が進んできている。だが、日本においては、今後の課題とする自治体が全体の73%を占めている(総務省・平成15年1月「地方公共団体ホームページのアクセシビリティ向上の取組に関する調査」より)。住民満足度の向上のためにも、JIS(日本工業規格)化された暁には、各自治体の一層の理解が進むことを期待する。

配慮すべき6つのポイント

アクセシブルなWebデザインでは配慮すべき項目がいろいろあり、JISの案でもどこまでを必須要件にすべきか議論されているが、筆者は、次の6項目だけは守ってほしいという提案をしている。

1 画像にはALT属性を付ける

視覚障害者の使う音声ブラウザでは、画像は読み上げないので、どんな画像が貼られているのか知るために、適切な解説を追加する必要がある。これがALT属性である。画像抜きで高速に表示をする場合やPDAなどでの表示にも、情報が伝わりやすい。また、検索エンジンで画像を検索する場合はALT属性がないと検索対象とならないので、アクセス数にも影響する。アクセシビリティのチェックツールでは何か入っていれば合格とするが、相手の身になって適切な情報を入れるのは人間の仕事である。単に「画像」ということが何十個も繰り返されるといサイトさえある。情報提供がサービス業であるという自覚の下に、長すぎず、二重読みにならないALT属性の追加を心がけてほしい。

図1 ●よく使われている別のサイトにリンクするボタン



2 リンクボタンになっている画像のすべてにALT属性を使ってリンク先を明確にする

リンク先を明確にしないと、トップページ以降、どこへも行けないというサイトになってしまうことさえある。音声ブラウザではURLやサイト内ファイルの名称を読み上げてしまい、非常に使いにくい(図1)。

3 日本語のページでは外国語の乱用はせずだれにでもわかるように配慮する

シニアや子どもには外国語がわからない場合もある。また専門用語や省略語は特殊な読み方をすることもあるので、英語表記のボタンなどではできればALT属性は日本語を入れることが望ましい。

4 色によって伝えられる情報は色がなくても情報が伝わるようにする

モノクロの画面で見ると、日本人男性の5%を占めるといわれる色覚障害の方の場合、色に重要な意味を持たせたサイトはとても使いにくいものになる。グラフには柄を入れるなどの配慮をする必要がある。

5 HEADに付ける<TITLE>は内容がわかるように適切なタイトルを付ける

「お気に入り」や「ブックマーク」に登録されるブラウザ左上のタイトルには、あとでどこのページかわからなくなる「Welcome Page」といった表現は避けるべきである。

また画面表示された全体を把握できない音声ブラウザ使用者は、タイトル情報がページの内容を判断する最初の重要な情報となっているので、内容にあった適切なタイトルを付ける必要がある。同じタイトルを延々と付けるのも同様に注意を要する。特にフレームを使うと、画面上からはそれぞれのタイトルが見えず、見落としがちなので注意すべきである。

6 レイアウトのテーブルは、音声ブラウザで情報が適切に読み上げられるよう配置する

本来は表を作るために使われるテーブルタグ(<table>)だが、簡単にレイアウトに利用できることから多く使われているのが現状である。特に、作成ソフトでは気が付かないうちにレイアウトのために多用されている。だが、スタイルシートやブラウザがうまく対応できないことから、現状では容認せざるを得ないが、音声ブラウザがテーブルを左上から右下に横に読まれることを理解してレイアウトテーブルを使わないと、情報が正しく伝わらない可能性がある(図2)。

以上、アクセシブルなサイト作成に必要な配慮6項目を紹介した。以下のサイトもぜひ参照していただきたい。(必須アクセシビリティガイドライン <http://www.uditt-jp.com/web/guide/guide1.html>)

e.Gov

図2 ●レイアウトのためのテーブルの使い方

